

お盆の棚行参り

お盆勤めは八月一日から八月十六日までの十六日間を予定しております。お勤めの時間は五分から十分程度を予定しており、ほぼすべてのご自宅にお伺いをする予定で、ご都合が悪い場合は七月末か八月十六日以降にお参りをいたします。お盆の時期が難しければ、秋のお彼岸にお参りをします。

四国八十八ヶ所ご案内

お遍路は十一月十二日から十四日に讃岐の国を廻ります。

詳しいご案内は十月の上之坊だよりのご案内しますが、普通寺一泊と旅館一泊を予定しております。

お遍路巡拝はどこから始めてもどこで終わっても構いません。今回からでも参加が可能です。

真言宗の基礎知識(その三十七)

(弘法大師)

もう少し高野山の開創のことを続けます。高野山を天皇より賜りたいと上奏したときの文章があります。「仏法の真の興隆は単に教義を論ずるだけではなく自分が深山幽谷にあって、瑜伽(ゆが)の実践で真理の体得こそが重要であり、お経や義軌で見れば紀伊の国伊都郡の平原幽地 高野山こそがもつとも座禅修行に適した地であります。」と書かれています。お大師様が日本で教えを弘め、実践する場所として熱望された約束の地でありました。

高野山で最初に開かれた伽藍の中央に三鈷の松(さんこのまつ)というのがあります。これは中国の留学から帰るとき、中国の港でお大師様が自分の行き先を占うために空に向かって投げた法具の三鈷が高野山の伽藍の松で輝いていたという逸話ですが、この元になった文があります。

「空海(私は)大唐(中国)より帰る船で、数々漂蕩(漂流)に遇い、一つの願を発(お)こした。もし帰朝の日には、必ず、衆生を救わんがために一つの禅院を建立し、法によって修業せん。」と誓われました。その誓いの結果か諸天に守られ無事に日本に帰ることできたのです。お大師様にとっての高野山の開創は諸天との誓いの結果でもあったのです。

後記

いよいよ納骨堂の工事が始まりました。六月十五日の着工奉告法会のあと、十九日には多くの石材が運び込まれました。梅雨の天候にもよりますが、完成は七月十日〜十五日頃の予定です。

この完成を待つて塀沿いの横門の建設が始まります。以前の横門と比較をすれば多少廉価な仕様になり、柱幅も狭くなりますが、二トン程度車の通行は出来る仕様です。

設計・施工は解体工事と同じ大森工務店で、以前の柱や瓦も使用できるものは再利用をすることにしております。基礎工事の後、七月二十九日には立柱前の奉告法会の予定で、遅くとも工事完了は八月下旬までには出来そうです。

上之坊だより

令和元年6月23日
第84号
福山市大門町大門325
電話 (084) 941-1031
fax (084) 941-1168



↑ 納骨堂着工奉告法会 ↓ 地鎮の様子 (6月15日)



こう ぼう だい し せい ご しょう

弘法大師聖語抄

ほうぼう すなわ なんし くとく

法宝は即ち難思の功徳を具して

せしゅつせ らく あた

持者をして世出世の樂を与えしむ

「仏さまの教えは私達の想像を超える功徳(くとく)を持っているので、教えを保ち実践する人はいろいろな多くの楽しみを持つことができる」とお大師さまは言われています。

ここに「世出世」と言う言葉が出てきますが、これは「世俗も世俗を離れた世界も両方とも」の意味で、普段の生活でも、修行の中でも、どちらの楽しみ喜びも得られると説かれています。

仕事や趣味であっても修行でも

興味さえあれば実践をしてみる姿勢が大切です。できない理由はあるかもしれませんが、物事を知っているだけではなく、行動をおこなって自分自身で経験を積み、聞くだけや見るだけと違い、深みや重みがまったく違ってきます。

厳しい修行にあっても、修行の合間の鳥の声や空の色の美しさに心を動かされ、生きる楽しみを見つけることができます。

お盆棚行のご案内

せがきくよう

お施餓鬼供養のご案内 七月十三日(土)午後六時半

おせがき(ロウソク)法要を七月十三日(土)夕方六時三十分より行います。

この法要は灯明・食物やお水をお供えして、多くの諸精霊の成仏を祈る法要で別名を「施食会」とも言われています。

地獄や餓鬼道に墜ち、飢えや渇きの苦しみで成仏できない精霊に水や食物を供えて成仏できるように願ひ、また最近亡くなられて間もない仏様には一層の菩提の安らかなる事を祈る法要です。

お盆には各地でいろいろな供養の行事が催されますが、このおせがき法要がその一番最初の姿であり、亡くなった

方への供養として、大変長い歴史を持つ由緒ある儀式であります。

今も多くのお寺で続けられているおせがき供養ですが、上之坊では亡くなられて三年有縁無縁(うえんむえん)の三界万霊への供養をいたします。

午後六時半に夕勤行を始め夕暮れを待ち、ご詠歌や読経をし、経木塔婆(きようぎとうば)に水をかけて回向をし、最後にロウソクに点灯をします。

新仏(しんぼとけ)様などで特別に成仏をお祈りいただく場合は、これに二尺半の施餓鬼塔婆をお墓にたてていた

だくよう用意いたします。できましたら前日までに電話などでお知らせください。

このときの志納金は五千元です。(記念品とお菓子付) また一般参拝の方には経木塔婆とロウソクをお渡しして供養をしていただきます。 一家族二千元をお願いいたします。(お菓子付)

この一般受付は当日十三日夕方六時十五分より開始いたします。

この法要終了後、今年のお盆勤めの日時のご希望を受けます。新仏様などでお盆中の八月十二日、十五日にご希望の方は残りいただき、ご相談をしたいと思います。

- 八月
- 一日 東谷・早期希望
- 二日 中谷・駅前・西谷
- 三日 横道・吉浜・能島
- 四日 幕山・大谷
- 五日 石樋・古地
- 六日 大門一、四丁目
- 七日 大門町南部
- 曙・新涯・川口
- 手城町方面
- 八日 福山市東部
- 引野町・蔵王方面
- 九日 福山中心部・西部
- 赤坂・尾道・三原
- 十日 幕山台・大谷台
- 青葉台・伊勢ヶ丘
- 十一日 福山市東部
- 笠岡・倉敷方面
- 十二日 新仏・福山市北部
- 十三日 新仏・その他
- 十四日 新仏・その他
- 十五日 新仏・その他
- 十六日 後期希望者

上之坊 納骨堂 着工奉告法会 執行

上之坊 納骨堂 着工奉告法会が寺総代・工事関係者が集まって大安の六月十五日に上之坊 本堂にて行われました。この日は弘法大師の生誕日にあたり、高野山や善通寺では賑やかな法要が行われる日です。午後一時半から本尊薬師如来に工事開始の奉告をし、工事の無魔成満を祈念いたしました。

今回建立される納骨堂は上之坊の本堂の真西、多宝塔に至る途中に建てられ、三十二年間(三十三回忌)まで、骨壺一つずつ奉安をしますが、三十三回忌が過ぎれば別の場所に設置される合祀墓に合葬を予定しています。

ただし、五十回忌まで納骨堂にお預かりする場合は後に別のお墓に納骨された場合にも対応できるようにしております。納骨堂内部には直接出入りできませんが、お骨の出し入れは可能です(有料)。

納骨堂の完成は七月中旬の予定で、予約の受付は七月一日からになります。(実際に納骨堂に奉納が可能となるのは九月一日からとなります。)

は六寸以上の骨壺で、関西は四寸以下の骨壺)や、期間の延長や短縮を希望される場合は志納額が変わります。ただし、プレートを納骨堂(後に合祀墓内部)に奉安される場合は別途に五万円が必要となります。

この納骨堂は檀徒の方のお骨のみをお預かりをするもので、他寺院檀家の方はお預かりいたしません。上之坊で葬儀・戒名をお付けした方のためのお墓として未来永劫に堅牢に護持されるものとなります。今までの位牌堂の永代供養と違いますのでご理解をお願いします。 詳細は七月一日からご相談を受けてまいります。

毎月第四土曜日の午後一時半より護摩祈願をしております。開催日は七月二十七日、八月二十四日、九月二十八日です。なただでもご参加できます。護摩を焚いて無病息災を祈願いたしますので、どうぞお参りください。